

# 硬い鋼に穴開ける技術

## 奥谷金網製作所が開発

産業用金網メーカーの奥谷金網製作所（神戸市中央区）は、スウェーデン製の頑丈な「耐摩耗鋼」に穴を打ち抜く技術を開発した。普通鋼の約7倍、ステンレスの約3倍の硬さで、プレスする金型の改良などを重ねて実現した。産業廃棄物の選別用ふるいなどの耐久性を高める独自技術として、環境リサイクル業者などの需要を見込む。

（森 信弘）

# 金型など改良「耐摩耗鋼」にパンチング



同社は、金属板を金型でプレスして穴を開けるパンチングメタルの金網を手掛ける。板の厚みより直径が小さな穴を開ける「スーパーパーパンチング」などを得意としている。

耐摩耗鋼は、硬くて耐久性に優れる半面、パンチングすると金型やプレス機が傷む恐れがある。レーザーや切削による加工が一般的だが、時間がかかり、ひずみも出やすかった。

## 産廃選別用需要見込む

同社は環境装置メーカーなどから要望を受け、今年4月からパンチングの挑戦を本格的に始めた。

初めは金型の針が折れ、開いた穴に金属のかすがつくななどの困難もあったが、金型の構造やプレス油の調合、工程を見直し、半年か

硬い耐摩耗鋼に穴を開けるパンチング技術を開発した奥谷智彦社長（右から2人目）ら＝神戸市西区伊川谷町潤和

けて厚さ4ミリの板に直径15ミリの穴を5ミリの間隔で開けられるようになった。

加工時間は半分以下に短縮し、製造コストを抑えた。過酷な使用条件でも耐摩耗鋼なら交換頻度が減るため、環境にやさしい。

技術改良を進めて、厚さ4ミリの板に直径10ミリの穴を開けられるようにした。金属板の加工面積は徐々に広がっているという。

発電設備やビルなど、強度と軽さが求められる建築資材の需要も想定し、来年3月にはドイツの見本市に出展を予定する。

来年6月にも発売する。初年度販売目標は1千万円で、4年後には5千万円に引き上げる。奥谷智彦社長（51）は「国内にパンチングメーカーは数十社あるが、この技術があるのは当社だけだと思う。業界世界一を目指す」と話している。

# 「ほぼカニ」豪華版登場

## カネテツが年末限定販売

カネテツデリカフーズ（神戸市東灘区）は、カニの身の見た目や風味を本物そっくりに再現し、年末年始の食卓を盛り上げる練り製品「大漁 ほぼタラバガニ」「万福 ほぼスワイガニ」を25～31日の期間限定で販売する。

レギュラー商品として「ほぼカニ」「ほぼタラバガニ」などを扱い、人気を集めている。

本物のカニは、円安や海



「大漁 ほぼタラバガニ」を使った鍋（いずれもカネテツデリカフーズ提供）



「大漁 ほぼタラバガニ」

中国資本株上場以長直

めた背景について、中国政府の規制により今年後半から融資が滞り、資金繰りに

港証券取引所に上場した。既にハイテク株主体の米ナスダック市場に上場してお

登録企業増へ

（高見雅樹）